



万国外科学会 (ISS/SIC) 日本支部ニュース

News of Japan Chapter of International Society of Surgery

発行：万国外科学会 (ISS/SIC) 日本支部
〒160-8582 東京都新宿区信濃町35
慶應義塾大学医学部外科学教室
TEL:03-5363-3802 FAX:03-3355-4707
発行者：北川雄光
編集責任：万国外科学会 (ISS/SIC) 日本支部事務局長
和田則仁 (慶應義塾大学医学部外科学教室)
印刷：株式会社 dig TEL:03-3551-3060
年2回発行 1995年4月創刊

IATSIC による DSTC® コース 開催と、IATSIC -Japan 設立の ご案内

東京医科大学・救急医学
教授

行岡哲男



IATSIC (International Association of Trauma Surgery and Intensive Care) は ISS/SIC の 5 つの Integrate Society の一つです。この IATSIC がロイヤリティを持つ、DSTC® (Definitive Surgical Trauma Care) コースが、平成 25 年 2 月 13 日～15 日まで帝京大学で開催されました。この DSTC® コースは平成 23 年横浜の I S W の際に開催企画されましたが、このコースは残念ながら震災の影響で無期延期となりました。今回は、帝京大学医学部救急医学講座・坂本哲也教授、藤田尚講師らのご尽力により開催することとなりました。インストラクターとして ISS/SIC の元会長で DSTC® コースの普及に長く関わってこられた Kenneth D Boffard 先生 (南アフリカ) をはじめ、Stephen A. Deane 先生 (オーストラリア)、Scott D' Amours 先生 (オーストラリア)、Hayato Kurihara 先生 (イタリア) が来日されました。



Professor Boffard in animal labo at Teikyo Univeisity

3 日間の実践的な外傷外科の修練が実施され、IATSIC としての DSTC® コースの終了証書が 8 名の日本人の医師に発行されています。

また、今回の IATSIC による DSTC® コースの初めての開催を記念し、日本国内で IATSIC や DSTC® また ISS/SIC の情報共有や親睦を目的とした IATSIC-Japan を、坂本哲也教授 (帝京大学)・溝端康光教授 (大阪市大救急医学)・私 (行岡) の 3 名が発起人となって発足させることとしました。さしあたり代表は行岡が担当し、IATSIC-Japan の事務局は帝京大学医学部救急医学講座・救命救急センター (担当：藤田講師) におくこととしました。今後、IATSIC への入会のご案内や DSTC® コースの開催予定等々の情報を提供したいと存じます。

お問い合わせは、以下のアドレスまでお願いします。

IATSIC-Japan 藤田尚 foujitausc@hotmail.com



DSTC dinner
at Teikyo University



DSTC participants and course faculties at Teikyo University

BSI (Breast Surgery International) の 紹介

昭和大学医学部外科学講座乳腺外科学部門
教授

中村清吾

(日本乳癌学会国際委員会委員長、BSI council member)



BSI (Breast Surgery International) は、1999 年にウィーンで開催された万国外科学会において設立された。第一回の会長は、イタリアの Umbert Veronesi 先生 (European Institute of Oncology の創立者) であり、世界 38 か国の外科医師が中心となってスタートした。この後、オーストリアの Raimund Jakesz 先生 (2001-2005)、スウェーデンの Kerstin Sandelin 先生 (2005-2009)、米国の Jay K Harness 先生 (2009-2011) に引き継がれ、現在の会長は、香港の Polly SY Cheung 先生である。(次期会長には、カナダ McGill 大学の Sarkis Hratch Meterissian 先生が選出されている)

ISW2011 横浜 (組織委員長＝北里大学外科・渡邊昌彦教授) の際には、北里大学・蔵並勝講師のご尽力により、数多くの日本乳癌学会からの参加者を得て、BSI に対する国内の認知度もかなり高まった。この様子は、BSI のホームページでも詳しく紹介されている。(http://www.breast-surg-intl.org/)

乳癌診療は、外科のみならず、腫瘍内科、放射線腫瘍科、放射線診断科、病理診断科、形成外科、産婦人科等との集学的なアプローチが特に必要とされる分野である。しかし、特に発展途上国では、早期発見のためのスクリーニングプログ

ラム、乳房温存療法或いはセンチネルリンパ節生検、乳房再建等の普及に著しい遅れがあり、乳癌診療の質を向上させることを目的とした教育セッションを万国外科学会の会期に合わせて開催したり、別の機会に、直接発展途上国に出向いて行っている。

また、万国外科学会の際には、通常の国際学会と同様の自由演題を募り、口演に採用された演題に対しては、積極的に World Journal of Surgery に原著論文として投稿することを促している。また、本年、ヘルシンキで開催 (8 月 25 日～29 日) される第 45 回万国外科学会では、卓越した 6 つの口演、及び 2 つのポスター発表に対して、優秀賞を出すことになっている。また、発展途上国からの若手医師 6 名に、渡航費の助成を行う予定である。

本年ヘルシンキでの教育セッションは、8 月 26 日の終日ハンズオンを含む Ultrasound Course、8 月 26 日の終日ビデオによるプレゼンテーションをふんだんに取り入れた Breast Oncoplastic Workshop が予定されている。また、8 月 27 日以降の 3 日間では、一般演題の他、シンポジウムとして、1. Screening and risk assessment in breast cancer 2. Tailoring treatment to tumor biology and staging 3. Improving breast health outcomes in countries with limited resources 4. Extended breast cancer care や、①切除断端に癌が露出していなければ断端陰性としてよいのか? ②放射線治療後の再建は禁忌か? というテーマの Debate が企画されている。その他にも、Luncheon seminar や実際の症例にもとづく Case discussion など盛り沢山のプログラムが用意されている。

別の見方をすると、乳癌を専門領域とする腫瘍外科医 (Surgical oncologist) の、将来あるべき方向性を示したプログラム構成ともいえ、前回に続いて、日本からは是非多数の出席者を期待する次第である。

地方大学における 国際的視野を持った医療人の 育成への取り組み

高知大学医学部医療学講座医療管理学分野
外科学講座臨床腫瘍・低侵襲治療学(兼)
教授

小林道也



文部科学省によると平成16年以降、海外留学をした日本人が減少しています。医学部では「国家試験合格」という最も重要な目標があり、他学部と異なり、学部学生時代に長期の留学をすることは現実的ではなく、医師となった後、研究者として海外に留学することが一般的です。私ども、高知大学医学部では国際的視野を持った医師の養成を目標として、学部学生、研修医に対してさまざまな取り組みを行っています。

私が2007年4月高知大学医学部国際連携推進委員会委員長をおおせつかって以来、ハワイ大学医学部や台湾大学医学部と積極的な交流を展開して来ました。ハワイ大学医学部に私自身が1986年12月から1988年2月にかけて留学していたこともあり以前から個人的なつながりで多くの学生を派遣していましたが、大学としての正式な交流を推進するため、2010年2月に交流協定を締結しました。また、台湾大学医学部とも2011年10月に協定を締結しました。

国際学会から学んだこと

神戸大学大学院食道胃腸外科
教授

掛地吉弘



研修医の2年間を終えて、卒後3年目から胃癌の増殖活性をテーマに研究生活が始まりました。韓国でThe 2nd Joint Congress of Korean and Japanese Sections of Collegium International Chirurgiae Digestivaeがあり、杉町先生から「若手で発表してきなさい。大会長のKim先生に宜しく。」と言付かり、1年先輩の田上さんと同期の江見君と3人でソウルの街を訪れました。学会場でそれぞれの発表を行い、レセプションでProf. Kimに「杉町教授の教室から参りました。宜しくお願いします。」とつたない英語でご挨拶しました。そんな若造3人を、Prof. Kimは暖かい握手で迎えてくれ、丁寧に対応して頂きました。Posterでしたが国際学会での発表を経験し、海外のDr.やProf.と交流する意義を知り、ほんの少しながら世界が広がった貴重な体験でした。研究生活の2年目はドイツのハンブルグで15th International Cancer Congressがあり、杉町教授と教員5～6名で参加しました。学会場で杉町先生の堂々とした講演と、他の演者とのpointを押さえた活発な質疑応答を目の当たりにし、効果的なpresentationの大切さを教えて頂いた鮮明な画像として記憶に残っています。1989年11月にベルリンの壁が崩壊した翌1990年の8月の学会で、空いた時間を利用して杉町先生が皆をベルリンへ

具体的な交流としては、まず、数名の医学科学生を、2-3年時にハワイ東海大学で開催される医学英語のワークショップに派遣します。その後、4-5年生を年に1-2回ハワイ大学医学部で開催されるワークショップに派遣、さらに、英語力が優れている者は6年時の選択実習の一環として4週間ホノルルのKuakini病院で臨床実習に参加します。年によりばらつきはありますが毎年1-2名がSkypeによる面接に合格し、ホノルルで米国の医療に実際に触れる貴重な体験をしています。

また、看護科学生6名を台湾大学に1週間派遣し、現地で地域看護などの体験をしています。学生は台湾大学に行き、その規模、先進性に驚いて帰国してきます。いずれの交流も、一方通行ではなく、ハワイ大学医学部の学生、台湾大学医学部の学生も高知大学医学部に同じ条件で研修に受け入れるよう、あくまでも双方向の交流を心がけています。高知を訪問する際には本校学生とのプレゼンテーション、ディスカッションを英語でする国際セミナーを企画しています。

また、これらの派遣には、大学としてある程度の経済的補助を行っています。一方、がん診療に関わるおおむね10年以下の若手医師に対しては高知県医療再生機構専門医等養成支援事業補助金で、海外派遣事業を展開しています。海外で開催されるワークショップ、セミナー参加、もしくは国際学会発表などに要する費用を全額補助しています。

このように高知という地方でも学生、研修医時代からできるだけ海外の医療に触れる環境を整え、将来、国際学会での活発な活動へとつなげることができればと願って努力を続けています。

連れて行って下さいました。ベンツのマイクロバスでアウトバーンを走り、ベルリンに近づくにつれ、東ドイツの国民車でボディがプラスチックのトラバントが走っているのをあちこちで見かけました。ベルリン市街では壊された壁のかけらが観光客の土産用に売られていました。歴史が動く時を目にすることができ、半分崩れた“ベルリンの壁”によじ登って記念撮影をしたり、国際学会に参加したご褒美の様な楽しいひと時でした。

Dana-Farber Cancer Instituteに留学していた2年間は、American Association for Cancer Researchに所属し、annual meetingでposter発表を行いました。制限時間のある口演発表とは違い、数時間もの間、発表内容に興味を持ってくれた研究者と心ゆくまでdiscussionする大切さ、研究に向き合う真摯な態度を学ぶことができました。帰国して臨床に携わっていると、American Society of Clinical Oncologyのannual meetingに参加するようになりました。前原教授を先頭に、疾患チーフ、若手とともに参加し、様々な発表を通してそれぞれに刺激を受け、今世界で何が起これ、何がtopicとしてどのような議論がされているのか、real timeで目にすることができました。Plenary sessionでの数千人を相手にして20近いスクリーンを使っている講演や、質疑応答での互いの微妙な言葉遣いやニュアンスなど、その場にいることで体感できる臨場感に溢れています。

振り返ると、国際学会から多くのことを学んできました。万国外科学会1905年に第1回が開かれ今年で45回目を迎える、外科学の分野で最も歴史のある国際会議です。フィンランドのヘルシンキで開催される今大会のテーマは“Connecting surgeons”。参加した医師たちが、国際学会を通じて、世界の中の我が国の状況や立場を認識しながら、少しでもより良い医療を臨床の最前線で展開できれば幸いです。これからを担う若い世代にも積極的に参加して頂き、国際学会の良さを体験し、明日の医療へとつなげていけることを願っています。

中外製薬 | **Roche** ロシュグループ

抗悪性腫瘍剤 前薬、処方せん医薬品注1) **ゼロータ[®]錠300** **カベシタピン錠** 注2) 注意—医師等の処方せんにより使用すること

抗悪性腫瘍剤 抗VEGF注1)ヒト化モノクローナル抗体 生物由来製品、前薬、処方せん医薬品注2) **アバスタ[®]点滴静注用** **100mg/4mL** **400mg/16mL** **ベ/バシマブ(遺伝子組換え)注** 注2) 注意—医師等の処方せんにより使用すること

※効能・効果、用法・用量、警告、禁忌、原則禁忌を含む使用上の注意、効能・効果に関連する使用上の注意、用法・用量に関連する使用上の注意等は製品添付文書をご参照ください。

[資料請求先]

中外製薬株式会社

〒103-8324 東京都中央区日本橋室町2-1-1

ホームページで中外製薬の企業・製品情報をご覧ください。

<http://www.chugai-pharm.co.jp>

2013年3月作成

選択的NK1受容体拮抗型制吐剤 **イメント[®]カプセル125mg** **カプセル80mg** **カプセルセット** **アプレピタントカプセル** **EMENDO** 注2) 注意—医師等の処方せんにより使用すること

選択的NK1受容体拮抗型制吐剤 **プロイメント[®]点滴静注用150mg** **PROEMEND** 注2) 注意—医師等の処方せんにより使用すること

●効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等、詳細は製品添付文書をご参照ください。

資料請求先 **小野薬品工業株式会社** 〒541-8564 大阪市中央区久太郎町1丁目8番2号

胃液・胃酸分泌抑制剤 **セルベックス[®]** **50mg/10%** **バリエット[®]錠10mg** **錠20mg**

胃液・胃酸分泌抑制剤 **セルベックス[®]** **50mg/10%** **バリエット[®]錠10mg** **錠20mg**

●効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意については、添付文書をご参照ください。

会員動向

(2013 年 3 月 1 日現在)

会員数	356 名
内 訳	
正 規 会 員	324 名 (2012 年新規会員 6 名)
シニア会員	30 名
名 誉 会 員	2 名

支部活動報告

(2012 年 1 月～12 月)

2012. 4. 1	万国外科学会（ISS/SIC）日本支部ニュース第 34 号発行
2012. 4. 19	第 33 回万国外科学会（ISS/SIC）日本支部総会（於：幕張 ホテルニューオータニ幕張）
2012. 7	ISS/SIC 名誉会員推薦に向け、北島政樹先生推薦書類作成とスイス本部への提出
2012. 10. 1	万国外科学会（ISS/SIC）日本支部ニュース第 35 号発行
2012. 10. 27	第 34 回万国外科学会（ISS/SIC）日本支部総会（於：横浜 パシフィコ横浜）
2012. 12	Yokohama Award 第 1 回（ISW2013 ヘルシンキ）募集
2012. 12	ISS/SIC 本部非正規会員等に向け、会員資格状況のお知らせ送付

第 34 回万国外科学会(ISS/SIC)日本支部総会 議事録

2012 年 10 月 27 日土曜日 午前 7:00～8:00

於：パシフィコ横浜 Room 414+415

出席者：愛甲 孝、井本 滋、岡 正朗、片田夏也、北川雄光、北島政樹、桑野博行、小林道也、今野弘之、笹富輝男、竹之下誠一、寺島雅典、富田尚裕、中村清吾、夏越祥次、馬場秀夫、平田公一、幕内博康、松原久裕、真船健一、森 正樹、山川達郎、山口明夫、横江隆夫、吉田和弘、若林 剛、和田則仁、渡邊聡明（敬称略、五十音順、計 28 名）（事務局：奥田京子）

1. 開会の挨拶 北川雄光 日本支部長
2. 前回議事録の確認
3. 事務局からの報告 会員動向・支部活動。

和田則仁日本支部事務局長：スイス本部の正会員ではないが、日本支部だけの会員として把握している会員が 100 名余いる。過去にスイス本部の正会員であったが、会費を納入していないなど何らかの理由で本部の会員からははずれたと推察される。

北川日本支部長：ISS/SIC は本部と各国支部の会費を合わせた額を直接本部に納入し、支部会費分が支部に戻されるという仕組みになっている。熱心に日本支部会に参加いただいている先生の中にも、本部の会員ではなくなっている方がいる。ご存じないのではと思われるため、日本支部から個々にお知らせしたい。

4. ISS/SIC 理事会報告 / ISW2013 について

北川日本支部長：ISW2011 横浜が成功裡に終わり、財政的にも本部に大きく貢献し、かつ日本支部に余剰金を残し、若手へのスカラーシップが可能という状況であり、日本への期待は増々高まっている。ISW2013 ヘルシンキへも日本から多数参加して欲しいと申し入れがあり、支部ニュースに今回の LOC プレジデントである Ari Leppäniemi に執筆してもらった。暫定的ではあるが登録費、主な日程は支部ニュースに掲載した通り決まっている。日本の先生に一題でも多くの演題を提出していただきたい。様々な Award、名誉会員の推薦は現在手続きが進行中。登録費は、フィンランド外科学会との合同開催であり、フィンランド国内の若手には多少安く設定されているが、我々一般には横浜の時よりもかなり高い。この点からも、横浜の余剰金により参加費をカバーするようなスカラーシップを後程提案する。

懸案になっていた ISS Academy Education Foundation が設立、調印されている。これは発展途上国も含め世界の若手外科医の教育活動するための基金である。

5. Integrated Societies について

中村清吾先生：BSI は ISW2011 年から並行開催された。現在メールでプログラムの検討をし、主要なものはほぼ決まっている。スクリーニングに始まり、oncoplastic surgery など手術手技の方法が変わってきているので、それぞれの国でよく用いる方法を持ち寄り、意見交換をしようという方向で準備を進めている。私は 10 月から乳癌学会の国際委員長になったので、そちらにも積極的に呼びかけ参加を促したい。

高見 博先生：（欠席のため北川支部長代読）：IAES は 7 月にニューヨークで会合があり、プログラムはほぼ固まった。

若林 剛先生：ISDS の理事会が ACS であり、主だったプログラムが決まった。既にインビテーションを受けた先生もいると思う。食道逆流疾患の Patti Marco が ISDS 会長。フリーペーパーは全く決まっていないので、皆様の教室の若い方からペーパーを出していただき、その分野の司会座長をぜひお願いしたい。

北島政樹先生：次の内視鏡外科学会に ISDS 次期会長の Tonia Young-Fadok が参加することになっているので、そこで情報を得ていただきたい。

6. 機関誌 (WJS) について

北川日本支部長：編集長 John Hunter が精力的に務め、引き続き Impact Factor も伸びている。投稿、支援をお願いする。

7. ISW2013 参加若手外科医の支援プログラムについて

和田日本支部事務局長：ISW2011 横浜の余剰金を有効利用し、ISW の登録費が高額であることが若手にとって参加のハードルと思われるので、この部分を援助するという提案である。対象は 40 歳以下の日本人外科医で、オーラルの演題を提出し、日本支部会員の推薦があること。募集人員は 5 名程度。事務局が資格審査をし、資格のある応募者を、分野など様々なバランスをとって依頼した 4 名程度の審査員が点数評価し、合計点数が上位のものを選出する。ISW 演題応募締切が 1 月 7 日、早期登録一般登録費が 1 月末まで 680 ユーロなので、この部分をカバーする 7 万円を支給する。合計 35 万円とすると、ISW は隔年であるため 750 万円の資金は今後 44 年間使える見通しとなる。募集要項は 11 月の会員へのニュースレター送付時に同封し、1 月 8 日の ISW 演題募集締め切り後 1 週間程度で応募も締め切り、審査、受賞者を決定し、7 万円を振り込む。以上の案にご意見をいただきたい。

北川日本支部長：金額は 10 万円という案もある。また、将来、資金の由来がわかるように、たとえば Yokohama Award など名称をつけたいがどうか。

片田夏也先生：渡邊 LOC 前会長が欠席のため代わりに発言させていただく。前回の横浜では若手外科医の参加を促すようにと若手の参加費を安くするなど努力した。余剰金がこのような形で生かされ嬉しく思う。

北川日本支部会長：ご意見がなければこの案で進めたいが。（承認）

8. 次回支部総会日程について

次回の総会は恒例どおり日本外科学会最終日を予定している。早朝であるため、開始次回時間は多少繰り下げる方向でお知らせしたい。

以上（文責 和田則仁）

International
Surgical Week

ISW 2013



会 期：2013 年 8 月 25 日(日) - 29 日(木)

会 場：ヘルシンキ（フィンランド）

早期登録：2013 年 4 月 30 日まで

詳細は <http://www.isw2013.org/>日本支部のウェブサイトもご覧ください
<http://iss-sic.umin.jp/>

プロトンポンプ・インヒビター エソメプラゾールマグネシウム水和物カプセル

ネキシウムカプセル 10mg 20mg

薬価基準収載 処方せん医薬品^(※)

効能・効果、用法・用量、効能・効果に関連する使用上の注意、禁忌を含む使用上の注意等については添付文書をご参照ください。

販売元（資料請求先）
第一三共株式会社
東京都中央区日本橋本町3-5-1製造販売元（資料請求先）
アストラゼネカ株式会社
大阪市北区大淀中1丁目1番88号
0120-189-115

2012年10月作成

ヤンセンファーマ株式会社
URL:<http://www.janssen.co.jp>

janssen

私たちが目指すもの：
それは、違いをもたらしこと

私たちの大きな使命。それは、今なお応えきれず、患者さんたちが切望する課題に取り組み、これを解決することです。

ヤンセンがとりわけ注力しているのは、5つの大きな治療領域—神経科学、感染症、腫瘍（がん）、免疫疾患および疼痛—です。

さらに、当社の製品ポートフォリオは、その他の重要な領域についても扱っています。

私たちは「人を助ける人」でありたい。

—統合された知識と資源を使いこなし、卓越した科学の力と可能性に投資して、世界中の人々の寿命と QOL を向上させるために全社一体となって取り組んでいます。

ヤンセンの名のもとに、私たちはあらゆる患者さんのために全力で科学を追求します。

2012年 収支決算書

(2012 年 1 月 1 日～12 月 31 日)

ISS/SIC

2013 年予算案

(2013 年 1 月 1 日～12 月 31 日)

ISS/SIC

日本円の部

単位：円

I 収入の部	予算額	決算額	備考
会費	730,000	791,733	
広告掲載料	850,000	700,000	
寄付	0	0	
雑収入	0	1,142	
当期合計	1,580,000	1,492,875	
前年繰越金	9,834,372	9,834,372	
収入合計	11,264,372	11,327,247	
II 支出の部			
会議費	500,000	544,112	2011 年秋総会支払分を含む
通信費	150,000	167,202	
印刷費	450,000	541,540	
文具費	10,000	23,420	封筒印刷(500 枚)
交通費	50,000	41,890	
人件費	360,000	175,000	
雑費	10,000	17,390	
予備費	50,000	88,800	事務局 PC 買い換え
支出合計	1,580,000	1,599,354	
収支残高	9,834,372	9,727,893	(2013 年 繰越金)

ユーロの部

単位：ユーロ

収入の部	予算額	決算額	備考
会費	8,600.00	2,572.80	*前期分のみ。後期は日本円で入金 (791, 733 円)
利息	0	5.74	
繰越金	7,145.02	7,145.02	
収入合計	15,745.02	9,723.56	
支出の部			
日本円へ預替	7,300.00	0	*後期分は日本円で入金のため (791, 733 円)
スイス本部寄付	2,600.00	2,600.00	
支出合計	9,900.00	2,600.00	
2012 年繰越金	5,845.02	7,123.56	

残高 日本円 9,727,893 円 (通帳残高 9,715,042 円+現金 12,851 円)

ユーロ 7,123.56 ユーロ (通帳残高 7,123.56 ユーロ)

ISS/SIC 万国外科学会 日本支部

2013 年 2 月 12 日

監事 田中雅夫

2013 年 2 月 22 日

監事 田尻孝

日本円の部

単位：円

収入の部	予算額	備考
ユーロから預替	902,000	8200 ユーロ 1 ユーロ=110 円で計算
広告掲載料	700,000	
寄付	0	
雑収入	0	
利息	0	
当期合計	1,602,000	
前年繰越金	9,727,893	
収入合計	11,329,893	
支出の部		
会議費	360,000	総会 2 回分
通信費	180,000	
印刷費	520,000	ニュースレター 2 回発行分
文具費	30,000	
交通費	90,000	
人件費	360,000	
雑費	12,000	
予備費	50,000	
Yokohama Award 賞金	500,000	10 万円×5 名
支出合計	2,102,000	
収支残高 (2014 年繰越金)	9,227,893	

ユーロの部

単位：ユーロ

収入の部	予算額	備考
会費	9,500.00	
利息	0	
繰越金	7,123.56	
収入合計	16,623.56	
支出の部		
日本円へ預替	8,200.00	
スイス本部寄付	1,300.00	
支出合計	9,500.00	
2014 年繰越金	7,123.56	

善意と医療のかけ橋

献血
ヴェノグロブリンH

日赤
ポリグロビンN

ノイアート

クロスエイトM

献血
アルブミン
25%「ベネシス」

献血
アルブミン
5%「ベネシス」

赤十字
アルブミン
25%/20%

赤十字
アルブミン
5%

日本血液製剤機構

Japan Blood Products Organization

http://www.jbpo.or.jp

5-HT₃ 受容体拮抗型制吐剤

創薬、処方せん医薬品 (注意—医師の処方せんにより使用すること)

アロキシ® 静注 0.75mg

Aloxi® I.V. injection 0.75mg

アロキシ® 点滴静注バッグ 0.75mg

Aloxi® I.V. infusion bag 0.75mg

パロノセトロン塩酸塩注注射剤

薬価基準収載

50mL 新発売

製造販売元
大鵬薬品工業株式会社

〒101-8444 東京都千代田区神田錦町1-27

TEL:03-20-4527 FAX:03-3293-2451

http://www.taiho.co.jp/

提供先 HELSINN スイス

「効能・効果」、「効能・効果に関連する使用上の注意」、「用法・用量」、「用法・用量に関連する使用上の注意」、「禁忌を含む使用上の注意」等については、添付文書をご参照ください。

2012年10月作成